

飯豊山地高山帯におけるヤマトスジグロシロチョウの生態的知見

くさかり こういち
草刈 広一

(〒999-1201 山形県西置賜郡小国町沼沢185)

はじめに

飯豊山地に生息する高山蝶はベニヒカゲ1種であるが、キアゲハやモンキチョウ、ヤマキマダラヒカゲ、ヒメキマダラヒカゲ、及びタテハチョウ類などが稜線で目撃される。キアゲハは2018年9月10日に種蒔山(山形-福島県境1791m)付近で終齢幼虫がセリ科植物から発見されており(草刈, 未発表), ヤマキマダラヒカゲも2000mでの羽化が確認された(草刈, 投稿中)。ヤマトスジグロシロチョウもしばしば高山帯でみられるが, 2018年にはカイラギ小屋の周囲で頻繁に観察された。本報ではそれらの記録を示し, 高山帯での本種の発生の可能性について考察した。

観察記録

《春型の観察記録》

2018年6月14日, 飯豊本山と駒形山間の稜線, 標高2040m地点のハイマツ群落内のチシマザサ葉上にて, 本種の春型1頭を発見した(写真1)。スマホのカメラで撮影したためやや不鮮明であり, 雌雄の判別は困難であるが, 新鮮な個体であり, 春型に強く現れる黄色の地色が薄い個体であった。飯豊山麓では, 通常なら喜多方市側では4月中に, 小国町側では5月上旬から春型が発生すると考えられるが, 6月14日はそれよりひと月以上遅く, 高標高地で発生したものである。

《夏型の観察記録》

2018年9月16日, カイラギ小屋の小屋番に入っていた小国山岳会の大内田敏広氏は, 小屋の付近で白い蝶がたくさん飛びまわっていたためにスマホで動画を撮影し, フェイスブックに投稿された。筆者が閲覧したところ, すべてエゾスジグロシロチョウの夏型と思われ, 動画から写真5, 6をスクリーンショットで取得した。動画には写真5のように最大5頭が写っていた。写真5中央の3頭を拡大した写真6では, いずれもみがか吸水している様子が確認できた。同月24日, 御西小屋番をしていた筆者も所用でカイラギ小屋を訪問した際, 本種の2ペアの配偶行動を観察した(うち1ペアについて写真7, 8に示す)。どちらのペアもみによる求愛に対して, ♀は交尾拒否行動を示し, 交尾にはいたらなかった。特に♂は翅の破れが目立ち, 羽化後日数が経過しているようであった。

2019年はカイラギ小屋周辺で観察する機会は少なかったが, 8月13日に1頭目撃した。また, 御西小屋から飯豊山地の最高峰である大日岳に行く登山路で, 8月6日に2頭を目撃した。1頭はオノエイトドリの葉上に静止しており(写真3), ミヤマアキノキリンソウで吸蜜していた(写真4)。どちらも新鮮な♀であった。また, 同地で9月15日にも1頭目撃した。2019年はほかに御西小屋～烏帽子岳間で8月1日, 8月4日に各1頭目撃している。

考察

福田ほか(1982)は本種について, 本州中部では海岸地帯から標高3000m以上の高山帯まで見出し, その発生地は森林限界付近(標高2500~2600m)に達すること, そこでは原則として年2回発生を行うものとみられるが, 8月中旬に春型が発見されることがあり, 年1回に終わる場合もあると考えられること, などと解説している。

飯豊山で今回観察された1800~2000mは, 本州中部と比較すれば発生地であってもおかしくない標高である。しかし豪雪による偽高山帯が卓越し, ハイマツ帯やヒゲハリスゲ群落などの高山植生を伴う飯豊山地の稜線で発生しているとすれば, 特筆に値する。

カイラギ小屋での終期における多数の個体の観察から, 本種はカイラギ小屋周辺で繁殖を繰り返しているか, 少なくとも飛来してきた春型から一時的に夏型が発生したと考えるのが自然である。また, 夏型の目撃は8月上旬と9月中旬に集中していることから, カイラギ小屋周辺で9月中旬以降に観察されたものは第3化(夏型の2化目)となるのであろうか。

卵や幼虫を発見することがまずは重要である。カイラギ小屋周辺では, ミヤマハタザオが群落となり(写真2), 食草としてもっとも有力である。ミヤマハタザオは御西小屋周辺では見られないが, 飯豊本山小屋の周囲には生育している。ほかにカイラギ小屋や門内小屋周辺では, 黄色花のヤマガラシも散見され, 御西小屋周辺の雪田跡地にはミヤマタネツケバナも夏以降姿を現す。これまでの探索ではまだ幼虫を発見できないでいる。

おわりに

飯豊の稜線帯は国立公園の特別保護地区であり、調査の手段として捕獲が行えないため写真撮影が主体となるが、今後も調査を継続していきたい。本報告をするにあたり、小国山岳会の大内田敏広氏には、本種の集団の貴重な画像を撮影、提供いただいた。またフロラ山形の高橋信弥氏には食草の同定をしていただいた。深くお礼申し上げます。



写真1 チシマザサ葉上のヤマトスジグロシロチョウ春型
2018. VI. 14 撮影
飯豊本山西 (2040m)



写真2 ミヤマハタザオ群落
2018. VI. 2 撮影
カイラギ小屋 (1850m)



写真3 オノエイトドリ葉上のヤマトスジグロシロチョウ夏型♀
2019. VIII. 6 撮影
御西岳-文平ノ池間 (1880m)



写真4 ミヤマアキノキリンソウで吸蜜するヤマトスジグロシロチョウ 夏型♀
2019. VIII. 6 撮影 御西岳-文平ノ池間 (1880m)



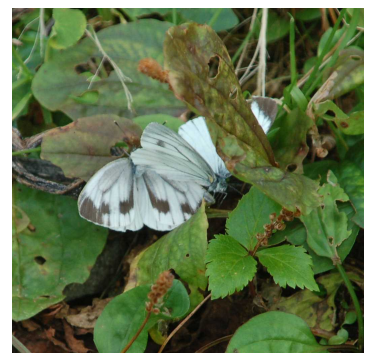
写真5 休息(左右各1頭), 吸水(中央♂3頭)するヤマトスジグロシロチョウ夏型
2018. IX. 16 撮影 カイラギ小屋 (1860m)
大内田敏広氏提供



写真6 写真5中央の拡大



写真7, 8 ヤマトスジグロシロチョウ夏型ペアの配偶行動
2018. IX. 23撮影 カイラギ小屋 (1860m)



引用文献

福田春夫ほか, 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 279pp. 保育社.